

第2回 植水小学校・植水中学校 学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和7年10月15日(水) 10:00~11:40

2 場 所 植水小学校 視聴覚室

3 参加者 略

欠席者 小野 行俊(西区明るい選挙推進協議会会長) 相川和子(青少年育成植水地区会会長)
佐藤 美子(植水児童センター長) 島田 正次(植水地区自治会連合会会長)
篠崎 翔太(植水中学校教頭)

4 内 容 (1) 小学校長あいさつ

(2) 委員の変更紹介

(3) 会長あいさつ

(4) 議事の検討

①各学校の実践報告

ア 植水中学校

イ 植水小学校

(5) 熟議

「あいさつあふれる地域を目指して、「学校・家庭・地域でできること」

(6) 意見交換

(7) 中学校長あいさつ

5 熟議内容 「あいさつあふれる地域を目指して、「学校・家庭・地域でできること」

(1) 事務局より、「あいさつあふれる植水地区」協働計画書(案)の説明

(2) 小中2班に分かれて、「学校・家庭・地域がどんな役割を担えるか」について熟議

(3) 主な意見 ◎全体に関わる ○家庭・地域 ●学校

◎背景として、人間関係が希薄になってしまった。

○地域としては、下校見守り、これは人間性を豊かにすることなので、声かけを続けていくといった意見が出ています。ただ、その中で現状が、今、返事をしてくれるのが6割。4割ぐらいは、ちょっと会釈をするというか、そういった具合だったので、そういった子たちも元気に返してくれるようになればいいかなと思います。

●学校としては、今日、太田校長からあったように、生徒主導で、いろいろやらせていくといったことを考えていくといった意見がありました。児童会とか生徒会主体のもので、生徒たちが、自分たちで考えて行うことによって、この活動自体が長続きするのではないかということです。あとは、集団心理として、みんなでやっていくことが当たり前につながってくる。そういったところで、この地区は幼稚園から始まり高校まで何校もありますので、すべてで一丸となって行うことが重要という意見がありました。

○家庭としましては、この人間関係が希薄といったところ、例えば隣の家が仕事を何しているかだとか、今、正直なかなか知っているということが少なくなってきた時代になっているかと思います。ただ、親が地域の交流、それこそいろんな集まりに参加してあいさつしている姿を見せることによって、子どもたちがよりあいさつをするのではないかといった意見がございました。

◎全体に共通することですけれども、私たちがやりたいなと思ったことが、あいさつをしてきてくれた子どもたちに対して褒めることをしていきたいと思います。「あいさつをしなさいよ」と頭ごなしに言うだけですと、やっぱり子どもたちも継続しない。先ほどその生徒主導でやるといったところで、結局、長続きさせることが必要だと思いますので、今まで声が小さかった子が元気な声であいさつをしてきたら、「大きな声であいさつができたね」なんて、褒めてあげることによって、あいさつが続いていくのではないかと思います。また、あいさつをしていくことで、あいさつの先にあるもの、結局あいさつして終わりということではなくて、そこで地域性、知り合いが増えることで、その先にある楽しいものですか、あとはふれあいを作っていくといったところのすべての根源があいさつだよなといった意見が出ました。

◎こちらのグループでは、まず地域で何ができるかというところの話から始めたのですが、その中で出てきたのは、やっぱりその目的というか、あいさつをすることで、その先にどういう社会があるのかというところを、共有できたらいいのではないかな。あいさつをすることによって、例えば防犯につながるとか、防災につながるとか、あるいは交通安全につながるというところで、それを理解してから子供たちがあいさつするかというと、そうではないところもあると思うので、鶏と卵的なところは多分あると思うのですけれども、そういったところを意識しながら大人の方は進めていくという話がありました。地域の方でできることとしては、顔を合わせたらいさつをするとか、住宅地内や隣のお家もそうですけれども、普段からあいさつをする姿を、子どもたちにもその姿を見せるということが あいさつを定着させていくことにつながるのではないかなという話がありました。

●学校ですとか、あと公民館さんとかそういう施設とかでは、それを仕組み化すること、システム化することで、まずは定着させるということも必要なのではないかという話も出ました。定着させるためには、標語とかスローガンとかを作るというのとは違うご提案もありました。あとは、仕組みとしては、学校でのあいさつ運動です。朝のあいさつ運動、あいさつ週間、あいさつ名人の表彰とか、そういったようなこともアイデアとしてご提案があったところです。次に、学校の中で、子供たちにあいさつが定着していく過程においては、例えば、学年クラスの中だけとか、友達だけではなくて、学年を超えたような中で、あいさつをする機会を作ることが効果的ではないか。それが人間関係の育成であるとか、そういったところにつながっていくのではないかなというようなご提案もありました。確かに、子どもの世界というのは多分ちっちゃい世界なので、それを学年を超えて学校に広げて、それをまた社会に広げてというところの入り口として、あいさつを使うというのも一つかなという話がありました。

○家庭の中では、親子のあいさつの習慣化ですね。結構家庭の中だと、こう口だけみたいになりがち側面もありますけれども、それでもやっぱり続けるということが大事なのかなというふうに思います。面倒くさがらずにあいさつはするといいというこ

とですとか、「行ってきます」、「行ってらっしゃい」、「いただきます」、「ありがとう」、「ごちそうさま」というような普通のあいさつというのを、ちゃんと続けて、それを子供に見せるということが、大事なかなという話がありました。そして、やっぱりそれを親や年上の兄弟ですとか、そういった人々が率先して行うことで、子どもにそういうあいさつを定着させていくということができたらいいなという話が出ました。

●様々のご意見ありがとうございました。本当にあいさつのその先を子どもたちにも伝えていく必要があるし、保護者や地域の方々にも理解していただき、この輪を広げていく。この輪が広がっていくことで人間関係が生まれ、それによってさらにあいさつの輪が広がっていくのかなということを感じることができました。学校の方でも、学年を超えた交流、地域の方を巻き込んだ交流とかを行っていきながら、お互いが顔なじみになり、あいさつの輪が広がっていけばいいなということを感じることができました。

●様々な意見をいただきましたが、今すでに取り組んでいることもあると思うのです。見守りボランティア等でご協力いただいていることがありますので、引き続きあいさつしていただきながら、すぐに子どもたちの成果があらわれるかわかりませんが、継続して私どもも指導を続けていき、定着していくようにしていきたいと思いました。ありがとうございました。

●今まで、育成会さんや各自治会さんたちが取り組んできた財産をもとに、さらに今日出てきたことを具体的に進めていきたいと思います。これ以降について、事務局の方に一任してよろしいでしょうか。

◎異議なし。

会長より

本日は大変お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございました。本日は、グループに分かれて、それぞれの熟議をしていただきました。あいさつは人の心を築くものです。一人一人が自分の人間関係をしっかりとをもって、温かい社会をみんなで構築していきたい。

6 意見交換

他地区でもあいさつ運動で地域活性化の事例も多い。植水地区の特性を生かして、保幼小中校が連携して運動を進めたい。

次回 第3回 植水小・中学校運営協議会 令和8年2月4日(水) 場所 植水中学校